

宇都宮の伝統文化

二荒山神社の祭礼



二荒山神社
の神楽



菊水祭



堀米の
田楽舞



二荒山神社の神楽

宇都宮市指定無形文化財

二荒山神社の神楽は、太々神楽と呼ばれるもので、江戸時代の中頃に江戸系統に属する神田流から教わったと伝えられ、神社では宮比流と称しています。毎年、1月・5月・9月のそれぞれ28日に、境内の神楽殿で18演目のうち7～8演目が奉納されています。面の数は、天津神(あまつかみ)の面ほか39面あり、高田運春らの江戸時代の終わり頃から明治時代にかけて活躍した宇都宮の仏師の名前が墨書きされているものが多くあります。



〈二荒山神社の神楽 18演目〉

岩戸廻りの舞、国定めの舞、猿田彦の舞、二神の舞、八幡の舞、四季の舞、玉取りの舞、岩戸の舞、稻荷の舞、鬼女の舞、三狐の舞、恵比須の舞、大黒の舞、熊襲の舞、随神の舞、お蛇の舞、湯立の舞、山の神の舞



国定めの舞



猿田彦の舞



二神の舞

国定めの舞

この舞は、神楽を始める際に必ず舞う舞で、神官や長老が面を付けずに素面で舞います。左手に大きな幣束を持ち、右手には鈴を持ち、鈴を鳴らしながら歩き、神楽殿を清めます。続いて四方を祓います。

■ 舞手…神官又は神楽長老 採物…鈴・大幣束 奏楽…出端・聖天

猿田彦の舞

猿田彦は、天孫の道案内として知られる、神の導きの神です。猿田彦の舞は、天と地の道を創っていく道開けの舞です。手に持つ鉾で天地四方を切り開き、大地を鎮め、これより登場する神々の先導役を務めます。

■ 舞手…猿田彦 奏楽…乱拍子

二神の舞

天津神(アマツカミ)と国津神(クニツカミ)の二神が、お互いの名を問い、名乗り合います。口上のあと、扇と鈴を手に優雅に舞う二神の姿は、天と地が融合して万物が生まれることを象徴しています。

■ 舞手…天津神・国津神 採物…鈴 奏楽…出端・聖天



八幡の舞



岩戸の舞



鬼女の舞



恵比寿の舞



お蛇の舞

八幡の舞

「鈴取り鬼」とも言われる舞で、拾った鈴を振りながら踊る鬼を八幡が退治する勇壮な舞です。異国から第六天の悪魔王が日本に飛んで来て人々を苦しめているので、八幡麻呂が出向いて神通の弓に方便の矢を持って見事退治する物語です。

■ 舞手…赤鬼・八幡 採物…鈴 奏楽…乱拍子・宮神楽・出端・聖天

岩戸の舞

天照大御神の岩戸隠れの神話を神楽化したもので、神楽の中で最も重要とされる演目です。天照大御神は、弟・須佐之男命の度重なる乱暴に困りはて岩戸に隠れてしまいました。困った神々は天照大御神を誘い出すため宴を催します。手力男命(タチカラオノミコト)が天の岩戸を力強く押し開けると中から天照大御神に見立てた鏡が現れ、世界に再び光が戻ります。

■ 舞手…猿田彦・岩戸の二神・鈿女・手刀男命
採物…岩戸・神鏡 奏楽…乱拍子・出端・聖天・宮神楽

鬼女の舞

憎悪にたぎる鬼女と鍾馗(ショウキ)の立ち回りを中心にした舞です。美しい姫と恐ろしい鬼女の面を使い、天神の舞とも呼ばれています。鬼女は姫と鬼の2枚の面を使い分け、青年命と対します。青年命は退散し、鍾馗が現れ鬼女と激しく立ち回り撃退します。

■ 舞手…青年命・鬼女・鍾馗 採物…大幣束・鈴・撞木
奏楽…出端・聖天・乱拍子

恵比須の舞

恵比須神は、恵比須三郎とも称され、商売の尊信あつい神で、「事代主神」ともいわれています。大国主命の第一の皇子でとても釣りの好きな神様です。道化・ヒョットコと釣りを楽しんでいると、鯛の次に大蛸が釣れます。道化は大蛸と相撲を取ります。この舞は漁民信仰を愉快に表現した舞です。

■ 舞手…恵比須・道化(A、B)・タコ 採物…魚(うなぎと鯛)
奏楽…出端・聖天・ヒョットコ・乱拍子・相撲太鼓・岡崎

お蛇の舞

お蛇の舞です。八岐大蛇の伝説を題材にした舞です。出雲の国の奥山にお蛇が住んでいました。脚摩乳(アシナヅチ)には8人の娘がいましたが、毎年お蛇が降りてきてさらわれてしまいました。いよいよ最後のイナダ姫の番です。須佐之男命は、道化に濃い酒を用意させお蛇に飲ませて退治します。

■ 舞手…イナダ姫・脚摩乳・道化・お蛇・須佐之男命
採物…瓶・大幣束・鈴 奏楽…出端・聖天・乱拍子・ヒョットコ・太鼓・岡崎

堀米の田楽舞

宇都宮市指定無形文化財

田楽舞は五穀豊穡を祈念する舞です。二荒山神社で現在の田楽舞が行われるようになったのは、江戸時代文化年間の頃と言われています。夏の初め、五穀豊穡を祈念する祭が行われるようになり、田楽舞が取り入れられ、田舞祭を行うようになったものと思われています。この田舞祭は、現在では5月15日に行われています。また、12月15日と1月15日のオタリヤでも奉納されます。



田舞祭の様子

田舞祭では社殿前、オタリヤでは下之宮で舞います



詩の歌詞

1番
国も栄えて 民も豊かに 治まる御代の ためしには
2番
池のみぎはに 鶴と亀 よろず代(よ)までも 限りなき
3番
千代も経なまし 姫小松 君の恵みぞ ありがたや

田楽舞では、拝殿の前の中央に、約1.5mの竹の棒に横木を十文字に通した踏掛(ふんがけ)を置き、右手にささらを持つ2人、左手に銅拍子と鞆鼓(かっこ)を持つ2人が向かい合い、中央に踊り手のささらと柄太鼓が並びます。歌にあわせ、腰をかかめる田植えの様子や、土手に見立てた竹の踏掛に足をかけて休めるしぐさをユーモラスな踊りで表現します。

堀米の田楽舞の衣装と小道具



田楽舞で使用される衣装や小道具は、二荒山神社で所有しており、管理されています。その衣装は独特のもので、白足袋、白衣の上に紐で膝と足首をくくりつける裁着袴(たっつけばかま)、上には裾の後ろが前より10センチほど短い半尻(はんじり)の羽織を身に付けます。さらに、周りに赤布を垂らした丸笠をかぶります。小道具は、鞆鼓、銅拍子、柄太鼓、ささらの4種類です。本来は笛が入ります。現在の田楽舞はササラ舞いのみで2分あまりの短い踊りです。

〈堀米の田楽舞の歴史〉

田楽舞は、豊作を祈る農耕儀礼として平安時代に始まり、鎌倉・室町時代には見せるための芸能に変わり、神社の祭礼行事などに組み込まれて全国で伝承されています。堀米の田楽舞の由来は天喜5年(1057年)源頼義・義家が奥州の安部氏追討の途中、二荒山神社に戦勝を祈願し、乱を平定し凱旋のおり、田楽舞を奉納して祈願成就にむくいたのが始まりと言われています。源頼朝が二荒山神社の神領として7500石を寄進し、その内18石を田楽舞奉納者が賜ったといえます。また、現在の田楽舞は、文化年間の頃、旅芸人が日光で演じたものを模倣し、それを二荒山神社の御神領であった宇都宮市関堀町の堀米地区の農家6軒に伝授されたもので、この6軒により代々継承されたものだとも言われています。

〈オタリヤ〉

オタリヤでは、お炊き上げのほかに、田楽舞の奉納と、神輿の渡御が行われます。祭神の乗る神輿が社殿から出て一行は階段を下り、下之宮へと向かいます。下之宮では渡御の式典として、神官の修祓、祝詞奏上が行われ、いよいよ田楽舞が奉納されます。5時半頃、列を整えて神輿が町の中を練り歩く渡御が始まります。



菊水祭



鳳輦渡御の様子

〈菊水祭の歴史〉

菊水祭の起源は、江戸時代の寛文12年(1672年)、日野町から火災が発生したおり、風下の曲師町が幸いにも類焼を免れたため、町の人々は二荒山神社のご加護があったためと喜び、その年の12月の冬渡祭に、日野町と曲師町から子ども数人の踊りの奉納とともに高張提灯を出しました。翌年1月の春渡祭には、他の町町からも出し物が出て混雑したため、「秋山祭の付け祭りとして行いたい」と社寺奉行に願い出て許可されたものです。延宝元年(1673年)、今から約340年前のことです。菊水祭の名前は、重陽の節句(菊祭)に行うようになったため菊水祭と呼ばれるようになりました。

新石町山車
(明治42年)
宇都宮の町中は山車や屋台で埋め尽くされました



神事、流鏝馬と鳳輦渡御が古式にのっとり連綿と続けられます

菊水祭では、「本社祭」と呼ばれる神前儀式が8時30分から行われ、羽織はかまで着飾った氏子代表や関係者全員が社殿に入ります。初日の神事は、杉の葉で神官が身のけがれを祓う杉の葉神事。2日目は黄菊と白菊の奉獻です。その後、鳥居内で鳳凰を飾った神輿への神霊奉遷の儀、9時からは出御祭が行われます。



流鏝馬は、鎌倉時代から武士の間に流行した騎射の一つで、馬に乗った武者が馳せながら鏝矢で的を射るものです。騎射は一の馬から四の馬まで四名の武者で行います。流鏝馬は夕方にも行われます。流鏝馬が終わると、二荒山神社の祭神である豊城入彦命が神輿に乗り宇都宮のまちを渡御します。神社を中心として東を下町、西を上町に分け、両町を一日ずつ回ります。

江戸時代から明治、大正、そして昭和の戦前ころまでの菊水祭はこれらの儀礼のほかに、氏子らが山車・屋台、各種の練り物が町中に繰り出し、祭りの規模、賑わい、氏子らの熱狂ぶりは、全国屈指の物でした。江戸時代に作られた「諸国御祭礼番付」には、東日本祭礼の十指に数えられ、江戸の天下祭に肩を並べるほどであったと言われています。今日ではこれら隆盛を誇った山車・屋台も、戊辰戦争や宇都宮空襲によってその大半は消失し、現在市内に原型のまま残っているのは、伝馬町および蓬萊町の彫刻屋台、本郷町の山車にすぎません。それでも、これらの山車や屋台は数年おきに菊水祭の鳳輦のお供をしています。



伝馬町の彫刻屋台



蓬萊町の彫刻屋台



本郷町の山車



■ **二荒山神社の神楽**

開催日：1・5・9月の各28日

場 所：二荒山神社

■ **菊水祭**

開催日：10月最終土曜日・日曜日

場 所：二荒山神社

■ **堀米の田楽舞**

開催日：12月15日・1月15日〈オタリヤ〉

5月15日〈田舞祭〉

場 所：二荒山神社

平成24年度 宇都宮市伝統文化映像記録作成事業

企画・制作：宇都宮市伝統文化映像記録作成実行委員会

協力：宇都宮二荒山神社 堀米の田楽舞保存会
宇都宮二荒山神社の神楽保存会

助成：平成24年度文化庁文化遺産を活かした
観光振興・地域活性化事業

発行日：平成25年3月31日

著者：宇都宮市教育委員会

連絡先：宇都宮市教育委員会文化課
宇都宮市旭1丁目1番5号

TEL. 028-632-2764

FAX. 028-632-2765

